



俳優の故佐藤慶氏手製の活字書体字典ノート



謄写印刷(ガリ版印刷)の魅力を伝えたいと単行本を出版した後藤さんと資料館

俳優の故佐藤慶氏や井上ひさし氏の父修吉のガリ版とのかかわりも描かれています。

「井上修吉は川西町の裕福な家に生まれて薬局を開業しますが、自分の置かれていく境遇に疑問を感じ、プロレタリア活動に参加します。昭和5年に小林多喜二が『蟹工船』を掲載した雑誌『戦旗』に「プリントの書き方」と題した謄写印刷方法についての小論を寄せています。労働運動や農民運動のピラなど自らガリを切っていたようです。なお、先年、修吉の著作『日丸伝奇』を70数年ぶりに当社で複製販売しました。」

「先代の父義樹が印刷会社を興したときのスタートが謄写印刷でした。70歳になったとき『今集めておかなければ』ガリ版文化がなくなってしまう」と当時付き合っていた業者などに手紙や電話でお願いし、先達たちが創った謄写印刷の魅力と手作業の素晴らしさを紹介いたします。最後に皆さんの周りには埋もれている謄写印刷物や機材があると思います。大事に保存します。蒐集にご協力ください。お願いします。」

日、資料探しに1日、写真撮影に1日、文書作成に1日と最低丸4日かかりました。最初は月1回、1年間の予定でしたが、連載を開始すると多くの反響が寄せられ、また、自身自身の勉強のために、25回プラス番外編となった次第です」

「佐藤慶氏はガリ版印刷の名手でした。若いころは俳優では飯が食えないと、文部省検定教科書の下刷りの仕事などガリ版の筆耕で食いつないでいました。そのことを知って手紙を出したところ、東京の自宅に招かれ、それがご縁で俳優座の名簿、チラシ、角封筒や新聞の文字を貼って活字の書体字典を作ったノートや大事にしていた作品、ガリ版機材を寄贈していただきました。佐藤氏の右手中指の第一関節は他の指に比べて太く『ガリ版タコ』で、刃物で切っても血が出ないくらい硬くなっている。葉巻のように太い鉄筆を握り続けると指に激痛が走り、二の腕は異常な熱を持ち、真冬でも水道の蛇口で腕を冷やしながら書いていた。いっばしのプロ気取りだった」と話してくれました。

「著名人以外の作品以外にも面白い印刷物がたくさんあります。昭和10年ごろ映画館で配られたチラシやアニメ『サザエさん』の台本。第一次世界大戦時に中国で日本軍の捕虜となったドイツ人が徳島の収容所で発行した新聞。戦艦陸奥で発行された『むつ新聞』は1号から219号まで数字の欠落以外までとまっています。いつ、どこでも筆耕・発行できる謄写印刷の特徴を物語っています」

「『温孔知新』の締めくくりに山形謄写印刷資料館のこれからについてふれています。」

チラシ山形

歴史・技術・作品を単行本に

山形謄写印刷資料館館長

後藤卓也中央印刷(株)代表取締役



山形謄写印刷資料館(山形ガリ版印刷資料館)の館長で中央印刷(株)代表取締役の後藤卓也氏が、謄写印刷の歴史と貴重な資料を紹介する単行本『温孔知新』を自費出版した。副題は「素晴らしき謄写印刷の世界」。

ガリ版は人間業の結集。人間が主役で人間の、人間による、人間のためのコミュニケーションのツール。1枚1枚の手刷りの美しさを知ってもらいたい。そんな思いを込めて出版した後藤氏を訪ねた。

「貴重な資料、懐かしいガリ版が満載です。出版に至る経緯は。『先代の父後藤義樹が社の敷地内に山形謄写印刷資料館を設立して、2021年2月で25周年になり、私25周年を迎えるに当たって、私が山形県支部長を務める印刷組合の団体である日本グラフィックサーピス(略称ジャグラー)から執筆の依頼を受け、機関紙に25回にわたって連載しました。これを多くの人に読んでもらおうと加筆修正、蒐集したガリ版作品や道具の写真を併せて出版しました。』

この素晴らしきガリ版の世界



山形謄写印刷資料館
(中央印刷(株)社内)

〒990-0051 山形市銅町1-1-5
☎023-631-5533
fax023-631-5535
※単行本『温孔知新 素晴らしき謄写印刷の世界』(A4判、56頁)は100部限定。税込み1100円
※資料館は土日祭日・中央印刷(株)所定休日以外の日開館。予約必要